

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	大村産眞珠貝に就て：論説
Author(s)	澁江，富貴三
Citation	龍南会雑誌， 5 4： 1 8 - 2 3
Issue date	1897-03-13
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/4774
Right	

以て自ら任ずるものにまて、尙かくの如きに至りては、余輩いかなる語を以て之を評せん。余輩はこゝに繰返す、余輩はウインケルマンの "Knabenliebe" を唱へざるも、希臘塑像術の研究は、彼等を警醒する最良の方法なり、と信ぜずんばあらず。余輩の本論を草する、別に深意の存するものある也。

(完)

大村産眞珠貝 *Avicula margaritifera Omuranae* に就て 澁江富貴三

緒言

二八冬季動物採集の目的を以て恩師中川教授に隨ひ下天草嶋富岡町に滞在中余は偶然曳網の中なる塵埃中に一介のアコヤガヒを發見しその大村灣に産するものと酷肖するを見て熟視觀察の後全く同一の Species なることを斷定し遂に此有益なる一魚介の我郷里の特産なることに思ひ及ばし淺劣を顧みず茲に其構造を世に紹介すべき責務あるを感じたり爾後心を用ひて材料を蒐め困難なる剖驗を経つ空しく時日を消費すること多かりき何分にも此責務を完全に遂了すべき結果を見るに至らず遺憾限りなしと雖も今や生物學的探究の多さに際し讀者各位の一瞥を辱ふし置かば或は他日完璧の觀察に資する處あるべきを信じ敢て此一編を録す今茲に區區此等私事を陳するは他なし讀者各位の郷里に於て學術上若くは生産上に興味ある生物あらば斯道のため有益なる論文の公にさるゝあらんとを欲するの餘に出づるなり幸に之を諒せよ

介類の日常饗膳に上るものは其地方に於ける最饒多なるものなるべし余は有明近海に堆積する蛤仔アサリ(*Tapes*)の殻の多きを見て余の熊本に於て食するキャの實を思ひ出づ此の如く余は亦大村灣沿岸に

於ける貝殻に對してアコヤガヒを思ひ出づるなり余及び余が同郷人の眞珠貝に對する此の如く普通なるのみ然るに各地經歷採集の後余は殆んど他地方に之を見ざりき故に余は其大村灣特産なることを知れり又大和本草綱目を繕きて其記載を見たり故に余は其貴重すべき貝なることを知れり古來裝飾とて世に翫され往時有力なる漢藥として非凡の價值を有せし『眞珠はアコヤガヒの珠なり伊勢眞珠を上品とす尾張を下品とす肥前の大村より上品を出すアコヤガヒは珠牡なり一名珠母又眞珠牡又名珠蚌云々』綱目所載大村珠母たるもの豈に世に學術的紹介せらるゝなくして可ならんや今満足といふべからざる此記録を公にするは實に已を得ざるに出づるところ也

精しく此貝類の配布を考ふるは全く大村の特産といふべからざるは勿論なり我九州に於ては鹿嶋縣下夏井大嶋あり熊本縣下天草嶋あり長崎縣下の二嶋にあり此等の中或は其屬 *Genus* を同ふして

スベシス種を同ふせざるものあり或は全く同じきありと雖も濫漁の結果は未だ其名をなすに足らざるなり

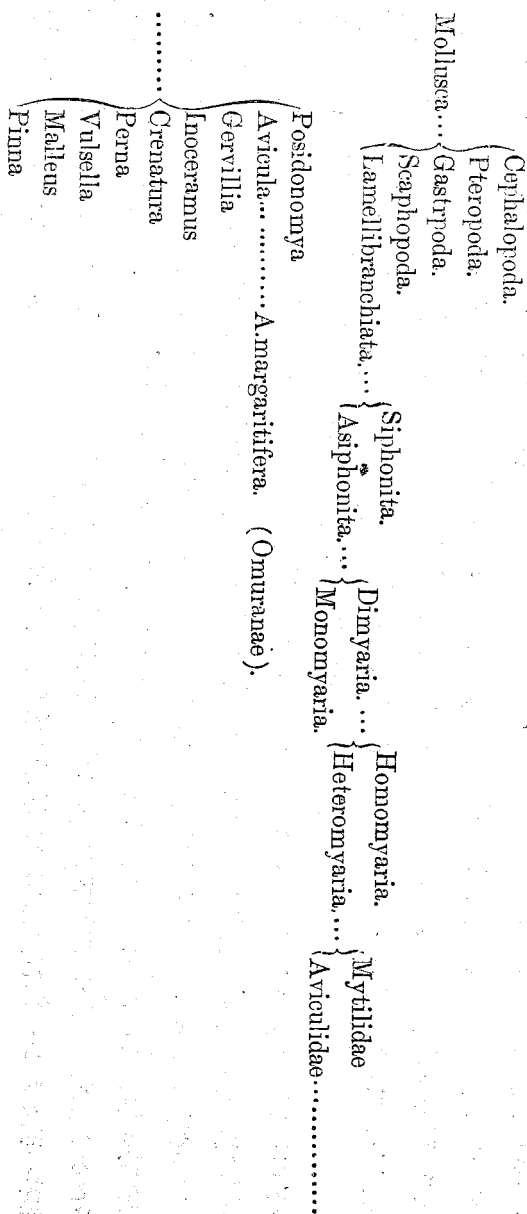
本土に於ては古來有名なる伊勢内海就中志摩國あり所謂尾張眞珠なるものは石決明、貽貝等の珠なる由に聞けば珠母として考ふるに由なし口碑の傳ふる所に依れば我大村産珠母は伊勢珠母の移植に係ると云ふされば自ら同一種なること知らるゝなり數年前博士箕作氏は伊勢珠母の剖檢を遂げられたりといへど寡聞なる余は未だ其記錄に接せざれば珠母の宗族及支族の比較を試る能はず昨年五六月の頃神戸又新日報は淡路國福良灣の海床に珠母の發見ありたることを載せたりこれ其後精確なる報に接せざるなり更に子細に察する時は動物の天然的配布及び人工的配布により程なく所々に此種の介を發見するに至るべしされば其外形なりとも知り置くは無用の事にあらず

球母の繁殖する地方は特に珠母礁 (Perlbaenke) と稱して地球上有名なる地位に立つものなり而して

内海及江灣は最も其繁殖に適するものなるべし大村灣の如き蓋し天然の棲息所と云ふべし地方廳は法を制定して其繁殖を保護し灣内を數箇所に區劃し年々一區つゝを漁夫に拂下げて漁獲を許す余の材料は灣の西北岸に位する久津浦に於て得たるものなり抑々漁獲の主となる目的は眞珠を得るにありムキミの如きは美味なるに係らず普通の魚介に比す眞珠の貴重なる上より考ふればさもあるべき事なり故に苟も一介の珠母を得れば立ろに殻は取去らるゝなりムキミは眞珠を搜索され損傷さるゝなり其構造の如き多く人の注意を惹起すに至らざるは怪むに足らずとす

動物學上の地位

I 其系統



2. 珠母屬の特徴

珠母屬(Avicula, Brug.)は殻は多少不同にして左右大さを異にし斜歪にして板狀なり内面は眞珠光澤を放つ左殻は右殻よりも強く且つ厚く組織せられ背縁は一直線狀にして其内端に翼狀の突起(耳)を形成し右殻に於ける小なる前耳の下部は紐絲 Byssus の體外に出づるために缺損して截痕を形成す多くは温帶に於ける海に産し現今生活するものに二十五種あり三百餘種は化石となりて存す

3. *Avicula margaritifera* L. の特徴

Schale rundlich-viereckig, mit nicht deutlich getrenntem, hinterem Ohre, gruenbraun, mit weissen Strahlen und mit schnupfigen, concentrischen Blaettern; Laenge 15 bis 30 cm.

是れ印度洋に産する大なる種の記載なり我大村産に此の如き大さに達したるものを見ず

4. 其配布

本邦に於ける珠母の配布は已に緒言に於て述べたり今世界に於て最も多く知られたる珠母礁を擧ぐれば左の如し

a. 亞細亞洲に於ては

一、波斯灣内 Bahrain 及び Ormus 島にあり諺に云ふ『世界が一つの指環ならば其寶石に當る所は Ormus ならん』此處には三萬人の漁師業に従事し年々四十萬磅の利を得るといふ

二、錫倫嶋の西海岸 Manar に近き Condatschi 灣及び錫倫及マドラス海岸の間なる海峡に於て所謂眞珠濱^{パールコースト}に産す此處には英國政府其事業權を握り漁獲法例を規定し年益貳萬五千乃至貳拾萬磅に上る漁獲區域は數ヶ所に分割せられ六七年の後に於て初年の漁區を再漁する例となり居れり

三、以前は紅海沿岸にも産せり今は濫漁の結果として其種を墮滅せり

b、亞米利加洲に在ては西印度諸嶋及び墨西哥灣地方に於て

一、Margarita 嶋にありこれは Cariben 群島の一なり近年は殆ど漁り盡されたりといふ

二、California 灣に産す

三、以前は Panama 地頭に於ける江灣にも産せり

c、大洋洲に在ては未だ世に知られざるもの多かるべし中にも近時盛に漁り始められたるは西嶼斯太利利亞の北岸に於て英人は盛に業を営み年々の産額夥しといふ

外形と常習の一斑

秀逸なる峰巒を以て繞られたる大村灣の四周沿岸に於て遠淺の砂濱を距る數町若くは斷岩絶壁の直下水深十數尋の海床に横はれる累々礫塊の間に砂泥或は海藻を以て掩はれたる扁平不正の塊簇攢して相累るものは實に珠母の一團變なり抑も眞珠は斯かるものより産するか其外貌の汚穢なるは云ふも更なり多くの小動物例へは *Molluscoidea* 水蛭海藻海苔等は擅に其外殼に居を卜するに非れば怒濤に露されつゝ幾年を経たるか鱗片の如く雲母片の如く欠損したる介殼を僅に開きて徐々に水呼吸及び營養攝收を営むの狀は文蛤蛎等に劣ること遠し唯思ひも寄らざる美觀は其綠色なる紐絲の光澤にあり紐絲は此貝の居所を定むる羈にして此に依て礫に付着し又相互の介殼を連ね相重疊し大塊をなすを以て此貝採集の際一顆の礫を取上ぐれば數多の介殼を伴ふを見るべし斯く群集するは受精せる卵子の一群粘液を以て被はれつゝ漂流して或岩石に達し若くは海藻に依て漂流を阻止せられ玆に居を占め成長に至るを以てなり此の如くなるを以て暴風波に逢ふか或を外力を蒙り紐絲を切斷する

に非んば終生一所に棲息するを常とす然れども多くは其生活時期に従つて棲息所を異にす若し冬期海邊に近き所に於て子細に水底の砂礫を検するときには幼稚なる珠母は恰も蒔葛の葉の如く集簇して附着するを發見すべし是れ當年生の珠母の一群にして後年に至り海波に誘はれて深海に棲める母體に近く轉住せんとするものなり珠母を飼養せんと欲するものは多くは皆幼稚なる珠母の海濱にあるものを取り勞せずして集め貯へ五年乃至八年を経れば完全なる老成珠母となすを得るなり十年以上を経るものは老衰に近づき殼の色澤は減じ眞珠は従つて價值を墮すに到る従つて此動物の壽命を推測するを得るなり

余ハこの條に於て大村產珠母の大きさを掲ぐべし最老成のものを得んことを勉めたれども採集上の困難は一方ならざるを以て普通漁獲年期(四—五)に於けるものに就て測定したり法に従ひ殼の上縁より下縁に至る長さを高ち Hoehne とし前縁より後縁に至る長ちを長ち Laenge とし左殼と右殼との中央に於ける距りを厚さ Dicke とす而して左の數を得たり

長さ七、五仙迷

高さ九、〇仙迷

厚さ二、五仙迷

これ最普通なるものゝ大さなり最も多數なるは三年乃至四年位のものにして従つて大さに於ても之より〇、五乃至一、〇仙迷を減す此の如きは食用として多く販賣さるゝ年輩の珠母なり (未完)

檢非違使と彈正臺

淺井由章

不肖先に檢非違使てふ標題の下に於て其以前の司法權より漸時説き及ぼし使廳の設官よりさて